

平成25年度第2回諸富地域審議会質問・意見整理表

第2次佐賀市総合計画(案)に係る質問・意見		事務局の回答	答申への取扱い
北村敏博委員	<p>第1次計画の目標年度が2014年になっているが、第1次計画の目標値を総括した上で、その前提に立って第2次の目標を立てるべきと思うが、その点が見えない。具体的には第1次計画のP53に商業で2014年の年間目標値が9,113億円、工業で2,639億円の目標値が掲げられている。今回基本計画の3Pでは現在値(2013年)商業で5,831億円、工業2,456円になっている。第1次の目標値とかけ離れた第2次の現在値(スタート値)となっているが、何故目標値が達せされなかつたのか、その点が見えない。これに関し一番影響するのは佐賀市の予算だと思うが、その点どのような議論がなされたか、社会情勢の変化によってこのようになつたということなのか。</p> <p>第1次の基本理念では、量的拡大から生活の質的向上へ、と書いてあるが、量的拡大から質の向上に向かうためには、どういう理念でするのかが、基本理念だと思っている。世の中をこう変えるというのは、基本的には基本理念じゃないと思っている。解釈の仕方が違うという印象を持っている。</p> <p>諸富町は、まちづくり自治基本条例に沿ったまちづくりを進めていこうとしているが、どのように反映されているかわからない。その辺の意見を伺いたい。</p> <p>この目標に対して予算にどう反映させているのか。これだけの項目を全部反映するのは非常に難しいと思う。非常に財政が苦しい中に果たしてできるのかという疑問を非常に持っている。 わかる範囲内で総括的な話を質問した場合は、後で、返事もらいたい。</p>	<p>第1次の38施策ごとに、毎年度の振り返り行政評価という手法で行っている。その中で施策評価という形で施策単位での評価をし、どこが足りていないのか、ここが現状課題とかの数値の目標や数値の成果の指標もあわせて全体を通して振り返り進めてきている。例を上げられた商業の振興に関しては、社会全体が、人口減少、市場が縮小している現状であり想像以上に、今回の計画の中でも推計を示しているが、下落もしくは伸び切れていない背景があった。</p> <p>計画の策定に当たっての考え方という位置づけで入れているので、指摘の部分とお考えの部分と違った切り口の表現になっているということで言われているかと思っている。計画策定に当たっての基本的な理念、基本的な考え方で整理をしている。</p> <p>基本理念の①は、まちづくり自治基本条例の中では、まちづくりの一番基本的な原則として、資料4-4、基本構想の資料12ページの中に、「①「絆を強め、情報共有、参加、協働によるまちづくりを！」」で、その考え方を示し整理している。 基本政策の部分の16ページ⑥番「互いに尊重しあい、共に創るふれあいのあるまち」では、市民が地域コミュニティ活動やNPO活動に積極的に参加できるような形で取り組む趣旨で、これまで地域経営の推進の政策で、行政運営のところまで一くくりにした政策として整理をしていたが、力を入れていくということを打ち出すことで、行政経営とは切り離し、特化した政策として打ち出した形で、計画の大きな構成の中に整理をしている。</p> <p>総合計画を作る前に、政策評価などで毎年見直している。これまでの計画に対する施策の進み方や事業の進展の評価と今後の課題は何かを整理し、2次計画に提案している。具体的に質問があれば、整理し、見せることができると思う。 コストの面での、予算への反映は、非常に厳しい状況で、事業にどうやって反映するかは課題である。施策の後にある事務事業に対し、どの事業に力を入れていくとか、少し我慢してもらうとかの、めり張りをつけ予算をつけ調整している。</p>	<p>質問事項については斜線表示</p>
原田委員	<p>第1次計画が2013年度の段階でどうなのかというの是非常に重要な要素である。それが、事業評価という形でこの計画を立てる前提として、計画がどう進捗していったかが全部は見えない。今度はどこが必要なのかの議論になるときに必要であり、いつどのような形で出してもらえるのか。</p>	<p>平成18年から行政評価を行っている。第1次計画の38施策の中に、約1,020の事務事業が下がっていて、この事業の1つずつに前年度の報告を原課が行い、目的、妥当性、公平性がどうなのかをチェックし、廃止、見直し、継続の審査を5段階でしている。この事務事業評価をベースに、政策ごとの進捗状況により、来年度の方針を説明し、部長、三役入ったところで、来年度どういうようなことを行うか審査を行っている。 市民がどの施策にどこまで満足されているかの評価を毎年4月に市民意識調査として5,000名の人に男女の比率、年齢、旧市町村ごとの人口の割合のバランスをとりながら無作為抽出で実施している。施策ごとの市民の満足度、思いも来年度以降の予算評価の中に入していく。点数をつけ、その点数により来年度のシーリングはプラス何%、今までとおり、削減ということで、やっている。 38施策がどういう実態なのか、今後の課題としてどう認識をしているかを次回説明したい。</p>	<p>質問事項については斜線表示</p>

第2次佐賀市総合計画(案)に係る質問・意見		事務局の回答	答申への取扱い
原田委員	社会的背景の中で、非常に重要なのは、格差社会が非常に広がっている現実をどう捉えるかということ。例えば、市民の所得がどんなふうに移り変わってきてているのか、世帯当たりどうなのか、さまざまな観点があると思う。だから、理念として絆を強めながらや地域社会の創造というのはとても大事なことである。その前提に、まず格差社会を解消する手立てをとっているかと常々思っているが、その視点が見えない。そのあたりをどう考えているのか。	市民の所得そのものというのは、把握はしていない。所得で把握しているのは、例えば生活保護世帯数等がどうなっていくのかはしているが、どう取り扱いで変化を把握しているのか調べてみたい。その辺の推移とあわせてどうなのかを、次回準備できれば示したい。	
北村勝洋 委員	幸せと言つても、金もうけしないことには幸せにはない。金もうける土台を作らないといけない。その辺はしっかりとほしい。	水産業の所得を確保され、安定した経営がなされる、これが目指すべき姿ということで上げさせてもらっている。そして販売額も、生産額も上げさせてもらっている。背景、課題、現状について我々がまとめたものを上げており、今後具体的にどうするかというものが13ページの取り組み方針になる。例えば、地域ブランドの強化と販路の拡大、そのためにソリや有明水産の商品のブランド化とか、特産品づくりに取り組むとか、消費者への効果的なPRをやるとか、そういう販路拡大のことをうたっているし、担い手の育成や水産業の労働時間の短縮とかコスト削減に施設の整備を支援とか、漁業環境をどうしますとか、こういうのが具体的な内容になる。事業者、水産業を従事される方の立場として、これはもっとこういうふうな表現がいいとか、こういった策も必要じゃないかということをぜひ提案してほしい。	
	総合的に1つのものに対して、実現したとか、これはできましたということはあるのか。	どう評価したかというのは、ホームページへ全部アップしている。どういう事業を幾らかけて、それをどういう反省して来年にどうしていくか、施策ごとに評価がどうなってということは全部公表している。	
原田委員	基本理念の順番に対応した形で政策が並んでいない。わかりやすくするためにには、順番も含めて対応できるようにしたほうがいいのではないか。 それで、基本理念の1、2、3、4、5というのは、やっぱり優先課題順になっているのか。政策と理念の順番を考えてほしい。	第1次総合計画を意識し、変更するとわかりづらいという部分もある。現行の計画を意識しながら、まず経済があり、次にそこで収入を得て福祉とか教育に回す必要もある。そういう考え方も現計画の中についたので、経済関係が一番表に来ている。ある程度踏襲をしてきている。	
	基本理念①「絆を強め、情報共有、参加、協働によるまちづくりを！」 絆というのは簡単に深まったり強まったりするものじゃなくて、情報を共有したり参加したり協働をしたりすることによって初めて絆というのが強まってくるわけで、そうすると、「情報共有、参加、協働による絆のあるまちづくりを！」と言い方に変えたほうがいいだろうと思う。		
	基本理念②、③の地域社会という言葉について 地域社会というのは、そもそもどの程度の地域を指して地域社会という言葉を使っているのか。いろんな言い方がある。諸富町全体なのか、校区なのか、あるいは小さなシュウジみたいなことを指しているのか、わかるような書き方のほうが多いのかなと思う。		
	基本理念④「地域の個性を磨き、自立したまちに！」 地域の個性を磨くというのはとてもいい。自立したまちというのは何を指して自立といっているのか、意味不明なので、少しそこ中身を書いて、こういうのが自立したまちなんだということがつながればいいだから、少し修飾語が要るのかなと思う。		
	基本理念⑤「グローバルに展開し、国内外から必要とされるまちに！」 確かにグローバルに展開しないといけない時期に来ていることは間違いないが、それが国内外から必要とされるまちなのか。逆に国内外にさまざまな形で発信できるまちにというとか、そういう言葉ではない。必要とされるというのは、受け身かなというような気がした。		

第2次佐賀市総合計画(案)に係る質問・意見		事務局の回答	答申への取扱い
澤野会長	人口を減らさないための歯どめをどういうふうに考えているのか、諸富町は、本所から東のほう、もしくは南のほうは、人口が増えない。2次総合計画で歯どめなどをどう反映していきたいと思っているのか。	<p>人口減少の歯どめはかからない。高齢化社会が、どんどん進んでいき、これを若返らせるためには、とにかく出生率を特殊合計出生率を上げるしかないが、若い人たちの就職の問題、ニートの問題、正規雇用の問題など、いろんなことが複合的になって、総合的にやっていかないといけない。</p> <p>それから、女性が社会進出し、仕事だけでなく、地域社会の中で軸として頑張っていただく、これが今日本で一番求められることと思っている。この総合計画の中には、そういう複合的に人口を包めるような、また、よそから入りやすいような佐賀市の持つ行政サービスのポテンシャルを全体的に上げていこうということが狙いである。</p> <p>人口減少の中で、コミュニティーをいかに保ち、維持し、皆さんで共同生活、絆を強めながらやっていくというのが今までやれることの一つ。それが今回、佐賀市が推進しているまちづくり協議会も一つである。今後職員の減る状況に追い込まれていく中で行政サービスが多様化し、少子高齢化により、今までなかったような行政ニーズや新たな制度に応えるためには行政だけでは無理であり、地域の皆さんと一緒にやれるものは一緒にできないか、また、地域の皆さんのがやってもらうことで佐賀市の総合力で乗り越えるしかない。</p>	
北村敏博 委員	20ページの諸富地域拠点の中の「交通利便性の高い沿道、交通利便性」というのは何を指しているのか。車を持っていていれば、割と交通の利便性は高いかもしれないが、バスは一般の住民には、非常に利便性が悪いと思っているし、現に買い物難民的な人も出ている状況がある。一番最後の「都市機能の充実を図ります。」の都市機能というのは、諸富は都市ではなく田舎じゃないかと思っている。むしろ自然を大事にするような地域にしていきたいと思うが、この文章の言葉遣いが非常に気になるところではある。	<p>交通利便性の部分については、バス路線に限ったことじゃなくて、道路機能とともにトータル的に交通というイメージで表現はさせていただいているつもりである。</p> <p>そして、都市機能というのは非常に間広な表現でして、住宅とともに含めて都市機能という。もちろん、公共公益施設、商業施設、学校、音楽ホール、そういうのも含めて全部都市機能と、病院とかを含めて言う。ただ、住宅みたいなものも含むという言葉、言葉の意味としてはそういうことである。諸富地域拠点、これが諸富の場合は市街化区域がありますけれども、市街化区域を想定している表現という形で一応させていただいている。</p>	
原田委員	土地利用(P18～)の、拠点(P20)というのがどういう扱いなのか。それぞれの地域の中で拠点の持っている役割を全体の佐賀市で考えたときに、それぞれの地域がどういう役割を果たしたらいいのかが書き込まれれば非常に全体が見えてくるという気がした。	市街化、都市計画上どういう役割を果たしていくのかというところで区分けをしている。ただ、これはあんまり明記すると、いろいろ調整区域のところからはまたいろいろありますので、こういう表現に抑えさせている。	

第2次佐賀市総合計画案への質疑及び意見書

大串委員	(基本計画 第1章 P2) 取組(基本事業)の「1-1-4コンベンションの誘致」に取り組むとなっているが、二十数万人の人口のまちに成り立っていく(必要)でしょうか。(交流人口の拡大や経済効果は理解できるが)		
	(基本計画 第1章P4)取組(基本事業)の「1-2-3企業誘致と新産業の創生」とあるが、新産業とはどんな業種を想定されているか。労働力人口が大幅に減少する中で新たな工業団地整備が必要か。		
	(基本計画 第1章P10)「1-5市民全体で支える林業の振興」という新施策名になっているが、市民全体が支えるとはすべての産業に共通すると思われる施策名を例ええば「基盤が安定した林業の振興」等に考えられないか。		
	(基本計画 第5章P4)取組(基本事業) 年少人口の大幅な減少が続いているが、小、中学校の再編に着手する必要があるのではないかと思われ、これを加えたらと考える。		

第2次佐賀市総合計画(案)に係る質問・意見		事務局の回答	答申への取扱い
松尾委員	(基本構想P12)②の4行目「また、自然災害に加え」の後に「中国大陸からの大気汚染物質PM2.5の影響や」を加えたほうが現状に即していると考える。このところ各地で心配が増しているPM2.5の記述が必要ではと考える。		
	(基本構想P14)将来像のキャッチコピーについて 「希望ある暮らし、安心安全につつまれた夢創造都市さが」を考えた。オリンピックがあったからか「希望」を実感した。「希望」には未来への期待等あらゆるプラスの要素がある。「幸せ」も含まれており「希望」の文字は人々にエネルギーを与えてくれる。		
	(基本構想P15)②の5行目「重点的に取り組みます。」の次に「又、PM2.5の情報を迅速かつ正確に伝え、対応策を講じ市民の健康を守ります。」を付記したほうが現実的だと思う。PM2.5の記載は不可欠だと思う。		
	(基本計画 5-2 P4)7行目「配慮を行なう必要があります。」の次に「又、不登校生徒の卒業後の状況を把握し、フォローする体制を作る」を付記してほしい。「不登校からの引きこもり」は社会的な課題である。卒業後のバックアップ体制が必要。「不登校生徒のその後」や「その後不登校になった生徒」について調査的なものが必要かと思う。		